

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 松山市立新玉小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒790-0011  
松山市千舟町八丁目89番地

E-mail : ara-eof@esnet.ed.jp

Website : http://aratama-e.esnet.ed.jp/

児童生徒数：男子 268 名 女子 291 名 合計 559 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

## 《概要》

本校では、平成19年度から6年生の総合的な学習の時間に「平和な世界を築くために」というテーマで、モザンビーク共和国（以下、モザンビーク）との交流を核とした国際理解・平和・環境学習を進めてきた。現在7年目を迎えており、本校の特色の一つとなっている。この学習に、「NPO法人えひめグローバルネットワーク（以下、EGN）」（代表竹内よし子氏）が年間を通して関わっている。EGNは、モザンビークへ継続的に支援を行っている団体である。竹内氏は、ゲストティーチャーとしてだけでなく、カリキュラム作りから、授業の組み立てのアドバイスまで多岐にわたって関わっている。EGNとの協働により、継続的な学びができ、学習が深まっている。また、学校だけでは難しい様々な取組ができています。

## 《ねらい》

モザンビーク共和国への交流や支援を行うことを通して、平和を築くためのこれからの行動や生き方を考えさせ、平和の担い手としての力、未来をつくる力を育てる。

## 《育てたい力》

- ・ 身近な地域と世界がつながっていることに興味をもち、課題解決のためのよりよい方法を工夫し、様々な人々と協力して計画的に取り組もうとする力
- ・ 進んで外国の人と関わり、心情や考え方を理解しようとするとともに、自分たちの考えや願いを正しく伝える力
- ・ 外国の人との相互理解や支援のあり方について、よく検討し、進んで自分にできることを実行しようとする力

## 《各学年の取組》

### 1 国語科 題材名「いろいろなくにのえほん」【1時間】（1年）

#### （1）題材の概要

本題材では、アフリカのモザンビークやタンザニアの絵本の読み聞かせを行い、感想を話し合うことで、お話の世界の想像を広げ、楽しむ。

#### （2）ESDの視点

##### 【持続可能な社会づくりの構成概念】

##### ○ 多様性

日本は、地域により様々な特色があるように、世界にも自然・文化などが違う様々な人々が暮らしていること

##### 【重視する能力と態度】

##### ○ コミュニケーションを行う力

進んで人とかわかり、相手の心情や考え方を理解しようとするとともに、自分の考えや願いを正しく伝える。

#### （3）留意事項

##### ○ 教材のつながり

楽しく話を聞き、外国の絵本に興味をもつ。

##### ○ 人のつながり

絵本の読み聞かせを聞いて、好きなところやおもしろいところを発表し合う。

##### ○ 能力・態度のつながり

いろいろな国の本に興味をもち、本の世界を広げ、楽しんで読もうとする。

#### （4）実践内容

国語科の単元「おはなしのくに」では、挿絵を見ながら、日本や外国の知っている昔話や伝承文学を思い出したり、粗筋を発表し合ったりして、お話の世界の想像を広げて楽しんだ。また、教材「おおきなかぶ」（ロシア民話）では、場面の様子を思い浮かべながら、音読したり、動作化して外国の話を楽しんだ。

そして、今回は、モザンビークの絵本「ネズミとウサギ」の読み聞かせをした。（写真 1）モザンビークの国名は、6年生が中心となって行ったモザンビークへの募金活動や大使を招いての集会などを通して、ほとんどの児童が知っていた。しかし、場所については知らなかったため、地球儀やインターネットを使って日本から遠く離れていることを確認した。また、暮らしの様子の画像についても見せることで、自分たちとの様子の違いに興味をもつことができた。

絵本「ネズミとウサギ」の読み聞かせの後、おもしろかったところ、心に残ったところを話し合った。児童は絵本の楽しさを味わうことができ、また、絵本を通して、モザンビークの国についても、思いをはせることができた。（資料 1）そして、タンザニアの絵本「いちばんのなかよし」の読み聞かせもした。絵本に描かれている絵に興味をもったり、他の国の知っている話と比べたりと外国の絵本への興味が広がった。



（写真 1）読み聞かせの様子



（資料 1）児童の感想

## 2 国語科 題材名「世界となかよくなるろう」【1時間】（2年）

### （1）題材の概要

本題材は、国語科「お話しじゅつかんを作ろう」の単元とつながっており、日本に昔話があるように外国にも昔話があり、日本の国にも広く紹介されていることを知るものである。

### （2）ESDの視点

#### 【持続可能な社会づくりの構成概念】

#### ○ 多様性

昔話は、日本だけでなく他の国にもあり、いろいろな話があること

#### 【重視する能力と態度】

#### ○ つながりを尊重する態度

自分がいろいろな国の本とつながっていることに関心をもつ。

### （3）留意事項

#### ○ 教材のつながり

外国の昔話は、他の学年の国語の教材とつながっているだけでなく、読書活動への関心が高まる。

#### ○ 人のつながり

児童同士の「つながり」を取り入れた参加体験型の学習にする。

#### ○ 能力・態度のつながり

外国の絵本を進んで読んだり、日本以外の国についても興味・関心をもつ。

### （4）実践内容

6冊の本を児童に紹介した。本の紹介場面と世界地図は、スクリーンに撮した。世界地図をかいたプリントは、児童一人一人に持たせ、位置が確認できるようにした。紹介した本と国の名前・活動は、以下の通りである。（写真 2）

『せかいちずのほん』… 日本とモザンビークの位置を確認する。

『大きなかぶ』（ロシア）… 最後の場面をみんなで読む。  
『3びきのやぎのがらがらどん』（ノルウェー）… クイズを出す。  
『スーホの白い馬』（モンゴル）… 1ページ目を読む。馬頭琴の説明をする。  
『三びきのこぶた』（イギリス）… クイズを出す。  
『さんねん峠』（朝鮮）… 数ページ読んでおじいさんがどうなったか想像させる。  
児童は、意識して外国の本を読むことはないので、国を確認しながらみんなで本の紹介を聞いたりクイズに答えたりしたのは、いい体験になった。これからの読書活動や世界への関心につながっていくと思われる。



(写真2) 活動の様子

### 3 総合的な学習の時間 単元名「ちがう国（モザンビーク）でも同じこと ～大好き新玉調査隊～」【11時間】（3年）

#### (1) 単元の概要

自分が住んでいる新玉（日本）とモザンビーク（外国）の、生活や文化の違うところや同じところを知り、感じたことや考えたことを話し合うことで、自分たちの生活や地域を見直す。

#### (2) ESDの視点

##### 【持続可能な社会づくりの構成概念】

##### ○ 多様性

世界には、いろいろな自然・文化・社会があることを知り、日本（自分たち）との相違点を探ること

##### ○ 相互性

様々な人と出会い、学ぶことで、互いに影響し合って社会生活が成り立っていることに気付くこと

##### ○ 連携性

違いを受け入れ、理解し、助け合おうとすること

##### 【重視する能力と態度】

##### ○ 多面的、総合的に考える力

「なぜだろう。」「すごいな。」「どうなっているんだ。」など疑問や関心を持ち、問題点を見付ける。

##### ○ コミュニケーションを行う力

自分の感じたことや思いを伝える。

##### ○ 他者と協力する態度

他学年の支援活動に進んで協力する。

##### ○ つながりを尊重する態度

相違点を考え、身近に感じる。

#### (3) 留意事項

##### ○ 教材のつながり

総合的な学習の時間「大好き新玉調査隊」で発見した校区のよさ（文化・人）との相違点を見付ける。

##### ○ 人のつながり

友達や講師の方々との触れ合いを大切に思う。

○ 能力・態度のつながり

モザンビークの人々の気持ちに寄り添い、支援活動に協力する。

(4) 実践内容

3年生では、モザンビークの人々の生活や文化（衣服、食事、言語、音楽）にふれる活動を行った。まず、地図や写真を手掛かりに話し合い、もっと知りたいことをはっきりさせた。次に、NPO法人えひめグローバルネットワークの方と出会い、国旗の意味や現状を知った。そして、マサラの笛を吹いたり（写真3）、歌を歌ったりする音楽活動や、主食のシマの粉を利用した団子作り（写真4）、カプラーナの布の着用（写真5）、自己紹介や手遊び歌（写真6）などの活動を通して、自分たちとの相違点を見付け、相手を尊敬したり思いやったりする気持ちをもち、仲間意識を高めた。



(写真3) マサラの笛



(写真4) 団子作り



(写真5) カプラーナの布の着用



(写真6) 手遊び歌

4 総合的な学習の時間 単元名「ちがう国(モザンビーク)でも同じこと」

【3時間】(4年)

(1) 単元の概要

本単元では、モザンビークの人々の生活を知り、日本との共通点や相違点に気付かせる。世界には様々な国や文化があることや自分たちの国についても改めて関心を持たせる。また、ソーラークッカーでの調理体験を通して、生活をより良いものにするための工夫や、地球環境の保護や自然エネルギーの活用についても興味・関心を持って探求しようとする態度を育てる。

(2) ESDの視点

【持続可能な社会づくりの構成概念】

○ 多様性

世界には様々な国や文化があり、日本との共通点や相違点があること

○ 有限性

地球上の資源は有限であり、生活をよりよいものにするために自然エネルギーを有効に活用すること

○ 連携性

他国の人々とも理解し合い協力していくこと

【重視する能力と態度】

○ 多面的、総合的に考える力

太陽熱を利用した調理器具を活用することで、時間や燃料を節約できるだけでなく、加熱した安全な食べ物や水を口にできたり、子どもたちの労働が減り教育を受けられるようになったり、さらに地球環境保全にも役立つことに気付く。

○ 他者と協力する力

モザンビークの自分たちと同年代の子どもたちの立場に立って考え、支援していく。

(3) 留意事項

○ 教材のつながり

総合的な学習の時間「あったかハートあたま」、理科「一日の気温の変化」、社会科「住みよいくらしをつくる」とのつながりに気付く。

○ 人のつながり

友達やモザンビークの人々、モザンビークとかかわりのある講師の方々との触れ合いを大切にする。

○ 能力・態度のつながり

学習したことを基に自分たちとモザンビークの未来について考え、交流や支援活動等、自分たちにできることを続けていこうとする。



(4) 実践内容

まず、モザンビークの小学校や病院の写真から人々の暮らしについて知る。次に、モザンビークでも用いられている太陽光利用調理器具「ソーラークッカー」での調理を体験する。

(写真7)最後に、ソーラークッカーの活用で生活がどのようによくなるのかを考え自分の身の周りでも役立ててみる。

この活動を通して、モザンビークの子どもたちも自分たち同様に学校に通っていることや、学校の設備や教材などの違いを知り、「もっと知りたい。」という関心が高まった。また、「モザンビークの人々は今の生活をどう変えていきたいのだろうか。」「自分たちにできることは何だろうか。」と相手の立場に立って考え、協力・支援したいという気持ちが育った。しかし、ソーラークッカーを用いての調理体験は天候・気候に左右されて実施が難しかった。



(写真7) ソーラークッカーについて  
竹内氏が説明している様子

5 総合的な学習の時間 小単元名「私たちの地球  
～バナナペーパーから環境について考えよう～」【2時間】(5年)

(1) 小単元の概要

本単元では、環境に優しいモザンビークのバナナの茎を原料にした「バナナペーパー」について学習することを通して、資源の大切さに気付き、普段の生活で使っている紙についても考えを深める。また、バナナペーパーでしおりを作ることを通して、紙の大切さに気付き、環境について考える。

(2) ESDの視点

【持続可能な社会づくりの構成概念】

- 相互性  
紙と環境とのつながりや人の行動と環境とのかかわりを知ること
- 有限性  
資源は有限であり、その大切さに気付くこと
- 連携性  
資源の活用方法について考え、自分の生活を工夫すること

【重視する能力と態度】

- 多面的、総合的に考える力  
人と環境とのかかわりについて関連づけて考える。
- つながりを尊重する態度  
モザンビークとのつながりに関心をもつとともに、自分と環境とのかかわりを意識する。
- 進んで参加する態度  
環境に優しい生活について考え、進んで実践しようとする。

(3) 留意事項

- 教材のつながり  
総合的な学習の時間「わたしたちの地球」において、地球温暖化やごみ問題、水の問題等、様々な面から環境問題についての学習を進めている。その一つとしてモザンビークのバナナペーパーを取り上げる。
- 人のつながり  
モザンビークにかかわりのある講師の方や6年生とのつながりを大切にする。
- 能力・態度のつながり  
自分の生活を見直し、環境に優しい生活を工夫する。

(4) 実践内容

まず、3種類の紙を見せてクイズをし、それぞれの紙が 何からできたものか考

えさせた後、資料を見ながらバナナペーパーの製造方法を確認した。次に、紙の生産に関する日本の現状を知らせ、バナナペーパーのことを基に、環境に優しい紙作りについて考えさせた。最後に、しおり作りを通して、紙の大切さに気付かせるとともに、自分たちの行動が環境の変化に関係していることに気付かせ、実践化につなげた。(写真8・9)

児童は、この活動を通して、資源の大切さに気付き、環境に優しい生活をしようとする態度が育った。



(写真8) バナナペーパーを使ったしおり作りの様子



(写真9) バナナペーパーを使って児童が作ったしおり

## 6 総合的な学習の時間 単元名「夢に向かって」【38時間】(5年)

### (1) 単元の概要

本単元では、まず、様々な職業の方々に話を伺い、社会には多様な仕事があることや働くことの大切さ、苦勞を知る。その後、地域の洋菓子店でクッキーを販売するための企画・プレゼンテーション・広報活動・販売活動を行うことで、働くということの一端を体験する。クッキー販売の売上げの一部はモザンビーク支援のための募金となる。商品の企画から販売まですることで、現実の生産、販売の現場に近づくことができる。活動が現実に近いほど、そこで身に付けた力は実際の社会で生きて働く力となる。また、身近な地域の産業や社会にこれまで以上に関心をもつようになることが期待できる。さらに、自己実現や社会貢献にもつながっていく活動である。

### (2) ESDの視点

#### 【持続可能な社会づくりの構成概念】

- 多様性  
様々な職業があることやクッキーを販売するまでには、多くの段階があること
- 相互性  
地域やそこに住む人々、モザンビークとかがわり合っていること
- 連携性  
全校児童・教師・保護者・地域・近隣の小中学校等と協力すること
- 責任性  
働くことの大切さを知り、進んで人のために働くこと

#### 【重視する能力と態度】

- 多面的、総合的に考える力  
人や仕事とのつながりを関連付けて考える。
- コミュニケーションを行う力  
自分たちの考えや思いを分かりやすく伝える。
- 他者と協力する態度  
友達と協力して活動する。
- つながりを尊重する態度  
様々な人や地域とつながっていると感じる。いろいろな人のおかげで自分たちの生活が成り立っていることを意識する。

### (3) 留意事項

- 教材のつながり  
社会科の産業の学習の中の働く人の思いや努力、工夫等に関する内容とのつながりを大切にする。

- 人のつながり  
地域の人のつながりだけでなく、モザンビークの人やモザンビークとかかわりのある人とのつながりを意識する。また、児童同士が協力し合う。
- 能力・態度のつながり  
モザンビークへの支援活動をさらに進める。また、進んで人のために働こうとする。

#### (4) 実践内容

まず、様々な職業の方々（洋菓子店店主・市議会議員・NPO法人の方・ユネスコ協会の方等）から話を伺うことで、いろいろな仕事があることや仕事に対する思いを知るとともに、色々な人のおかげで、自分たちの生活が成り立っているということ意識した。

そのことに加え、本校とモザンビークとの交流支援活動でお世話になっている竹内氏の話や6年生のモザンビークとの交流支援活動についての発表から、モザンビークの現状を知り、クッキーを販売してモザンビークの支援をしたいという考えが生まれた。話を伺った地域の洋菓子店店主の話の中で、店でクッキーが販売されていることを知ったことから、クッキーを販売するという着想につながったのである。

そして、洋菓子店の協力を得て、クッキーの販売を行い、売り上げの一部を募金に充てようという活動「M&A（モザンビーク&新玉）プロジェクト」を行うこととなった。以下、学習の流れである。

- ① クッキーのデザインを考える。  
平和をテーマにしたデザインを一人一人が考えた後、グループ毎に一つのデザインにまとめた。
- ② クッキーのデザインのプレゼンテーションを行い、販売するデザインを決定する。  
各グループ毎に、パソコンやペーパーサートを使ったり、劇仕立てにしたりするなど、発表方法を工夫して、プレゼンテーションを行った。その後、投票で1点ずつ学級代表を決定した。
- ③ 販売促進の方法を考え、広報活動を行う。(写真 10)  
ポスターやチラシを作ったり校内放送をしたりして、全校児童や保護者に知らせた。また、ポスターやチラシを公共施設や近隣の小中学校へ持って行き、掲示・配布していただいた。
- ④ 代表児童が販売活動を体験する。(写真 11)  
たくさんの本校児童や保護者、教師等が来店し、クッキー販売に協力してくれた。卒業生も来てくれた。

この活動を通して、地域とつながりながらモザンビークのために自分たちにできることを考え行動することができた。自分たちが考えたデザインのクッキーが洋菓子店で実際に販売される、しかも、モザンビークの支援にもつながるという現実社会と結びついた活動のため、終始児童の意欲は高かった。一方で、やり遂げることの苦労も感じていたが、友達と協力しながら最後までやり遂げたことで、達成感を味わうことができたようである。自尊心も高まっていた。活動後も、よりよい世界（平和な世界）にするために自分にできることは何かを自分で考え、今後の活動（6年生での活動）への意欲をもっていた。また、本校の活動を地域の方々や近隣の小中学校の児童生徒等、たくさんの人に活動を知ってもらうことができ、人とのつながりが広がった。ESDで重視する力の育成につながる、児童にとって多くの学びがあった活動であったと考える。



(写真 10) 近隣の小学校へ  
ポスター掲示のお願い



(写真 11) 販売体験活動



7 総合的な学習の時間 単元名「平和な世界を築くために～わたしたちのできること～」  
【70時間】(6年)

(1) 単元の概要

本単元では、持続可能な社会を実現するために、地球規模で起きている問題を手掛かりにして考え、実践しようとする態度を養う。

(2) ESDの視点

【持続可能な社会づくりの構成概念】

○ 多様性

世界に目を向け、自然・文化・社会・経済環境が違う様々な国があり、様々な人々が暮らしていることや、人々の考えも様々であることを学ぶ。

○ 相互性

世界の現状を知るために様々な方と出会い学んだり、モザンビークや県外の友達をつくり、交流したりする。

○ 公平性

先進国と途上国の違い(格差)を知り、公平・公正・平等な社会(平和な社会)となるための方法を考える。

○ 連携性

全校児童・教師・保護者・地域・NPO・大学・ユネスコスクール等、多様な主体の連携・協力による課題解決を目指す。

【重視する能力と態度】

○ 多面的・総合的に考える力

様々な情報から多面的・総合的に物事を考え、判断する。

○ コミュニケーションを行う力

進んで人とかわり、心情や考え方を理解しようとするとともに、自分の考えや願いを正しく伝える。

○ 他者と協力する態度

友達や保護者、地域の方等、様々な人々と協力する。

○ つながりを尊重する態度

教材や人とのつながりを実感しながら、それを大切にする。

○ 進んで参加する態度

課題解決のために、進んで実行しようとする。

(3) 留意事項

○ 教材のつながり

教科学習で学んだ技術を活用して、調べ学習を行う。他学年との協力や実生活とのつながりも大切にする。

○ 人のつながり

参加体験型の学習の中で、友達や講師の先生と触れ合い、語り合う。

○ 能力・態度のつながり

モザンビークへの支援活動を進め、行動する。

(4) 実践内容

○ 平和について考えよう

- ・ 竹内氏、平和の語り部、ユネスコ協会の方から平和について学ぶ。
- ・ モザンビークについて調べる。
- ・ 平和の色を考え、考えを交流する。
- ・ ハンガーバンケットを体験し、考える。
- ・ モザンビークアーティストと共同制作し、触れ合う。(写真12)



(写真12) モザンビークアーティストと共同制作

- 自分たちにできることを考え、実践しよう
  - ・ 3グループ（支援・交流・広報）に分かれて計画を立て、実践する。

①□ 支援グループ

支援物資集めや募金活動を学校や地域で行った。移動図書館ができるという話を聞き、支援物資集めでは、昨年度までの文房具に加え、初めて絵本も集めた。また、シニャンガニーネ村に公民館が建設されることから、公民館建設のための募金活動をした。

② 交流グループ

文化と技術の交流として、着物で作成した袋や筆入れ、ミサンガ、塗り絵を作成し、シニャンガニーネ小学校へ送った。 (写真13)



(写真13) 文化と技術の交流として作成した着物で作った袋や筆入れ・ミサンガ

③ 広報グループ

ユネスコスクールに加盟している愛知県岡崎市立城南小学校と互いの取組を知らせる活動を行った。(写真14)



(写真14) 学校紹介のDVD (ユネスコスクール交流校へとモザンビークの小学校へ)・掲示物

○ 後輩につなげよう

自分たちが学習したことや実践してきたことを、「5年生に伝える会」に向けて、準備を進めている。伝える方法を工夫しながらしっかりと伝えることで、新しい伝統を築き、つながっていくことを楽しんでいる。

6年生は、モザンビークを一つの足掛かりとして、1年間を通して平和について考え、学ぶ活動を続けている。様々な方々に出会い、生の声を聴きながら考え、平和への自分たちの実践につなげてきた。今年は、県外のユネスコスクールとの交流が始まったり、ユネスコ協会の方やモザンビーク大使の方などの新しい出会いがあったりして、常に、新しい風が吹き込まれている。これも、年間を通して、学習のアドバイスをしてくださるグローバルネットワークの竹内氏の力が大きい。竹内氏から様々な方との出会いが広がり、学びが広がり、実践が広がっている。人とのつながりの中で、思考を深め、確かな実践につなげることができた。考えたことを実践につなげ、その実践の手応えをつかむことができることが、子どもたちの活動のエネルギーになっている。ESDの重視する態度や能力の育成という点においても、様々な分野において総合的に育むことができると感じている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）